

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
4 1 3	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Clinical characteristics of asymptomatic esophagitis. 無症候性食道炎の臨床的特徴	
執筆者	
Nozu T, Komiyama H.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Gastroenterol. 2008;43(1):27-31	
キーワード	
無症候性食道炎、危険因子	
要 旨	
<p><b>背景：</b> 無症候性食道炎は胃食道逆流性疾患の中では珍しくないが、これまであまり注目されなかった。そこで、無症候性食道炎の臨床的特徴および危険因子を調べた。</p> <p><b>方法：</b> 上部消化管ファイバー検査にて診断された食道炎患者 87 名 (年齢：23～90 歳) を対象に断面調査を行った。検査時に以下の 12 の臨床的項目を評価した：症状・年齢・性別・食道炎の重症度 (ロサンゼルス分類による)・胃粘膜萎縮の程度・バレット上皮および滑脱ヘルニアの有無・飲酒・喫煙・肥満度 (BMI)・合併する疾患 (高血圧・糖尿病・気管支喘息など)・内服薬 (カルシウム拮抗薬・テオフィリンなど)。</p> <p><b>結果：</b> ほとんどの患者がグレード A ないしは B の食道炎であった。64 名の患者に自覚症状があり、23 名が無症候性であった。単変量解析では、性別・BMI・飲酒・喫煙習慣が無症候性食道炎と有意に関連していた。そこで、これらの 4 項目について多変量ロジスティック回帰を行ったところ、性別・BMI・喫煙習慣が有意に独立して無症候性食道炎に関連していた。</p> <p><b>結論：</b> 喫煙習慣・男性・低い BMI が無症候性食道炎に関連していた。この疾患の自然史についての情報が皆無であり、このような因子を有する患者については注意が必要である。</p>	